

## トピックス TOPICS

# 少子化社会に関する 国際意識調査について

少子化は、先進諸国において共通する問題であるが、一定の取組を講じて、出生率が改善した国もみられる。フランスやスウェーデンは、合計特殊出生率（以下、出生率という。）が一時期1.5～1.6台まで低下したが、国民負担を求めながら、経済的支援を含む子育て支援策の充実や仕事と育児の両立支援策など、長期間にわたり継続的かつ総合的な取組を進めてきたことにより、2000年代後半には2.0前後まで回復し、現在も比較的高い出生率を維持している。また、日本同様、長期間出生率が低迷していたドイツでも、男女の家事育児負担の平等化と女性の職場復帰を促したことにより、近年出生率の回復がみられ始めている。

内閣府では、少子化の背景にある要因や各

国の少子化対策について比較分析し、我が国の特性を把握するために、5年ごとに国際意識調査を実施している。2020年度は、2020年10月から2021年1月にかけて、日本、フランス、ドイツ、スウェーデンの20歳から49歳までの男女を対象に結婚・子育て等の意識に関する調査を行った。あわせて、2020年度調査では、新型コロナウイルス感染症拡大による影響についても調査した。

以下では、恋愛、結婚、妊娠・出産、子育てという個人のライフステージの各段階における意識と、新型コロナウイルス感染症拡大が結婚、出産、育児負担に与えた影響について、国際比較の結果を紹介する。

## (1) 恋愛

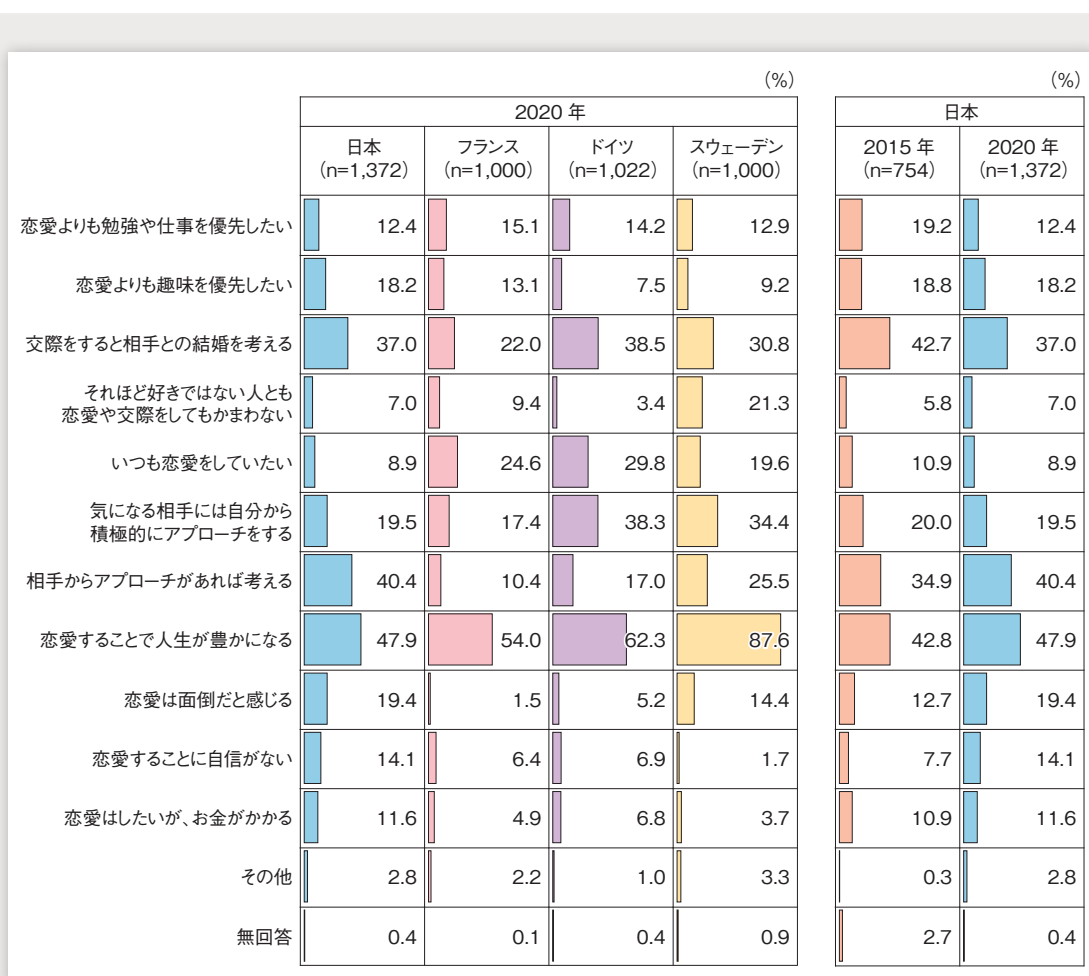
### ア 恋愛に対する考え方 (図表1)

恋愛に対する考え方について聞いたところ、日本では、「恋愛することで人生が豊かになる」(47.9%) が最も高く、次いで「相手からアプローチがあれば考える」(40.4%)、「交際をすると相手との結婚を考える」(37.0%)が続く。

各国の結果を比較すると、各国とも「恋愛することで人生が豊かになる」(フランス：54.0%、ドイツ：62.3%、スウェーデン：87.6%) が最も高いが、特にスウェーデンでは9割弱となっている。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「恋愛することに自信がない」(2015年：7.7%→2020年：14.1%)、「恋愛は面倒だと感じる」(12.7%→19.4%)、「相手からアプローチがあれば考える」(34.9%→40.4%)、「恋愛することで人生が豊かになる」(42.8%→47.9%)の各項目でそれぞれ5ポイント以上増加した一方、「恋愛よりも勉強や仕事を優先したい」(19.2%→12.4%)と「交際をすると相手との結婚を考える」(42.7%→37.0%)は5ポイント以上減少した。

図表1 恋愛に対する考え方 (複数回答)



注：「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

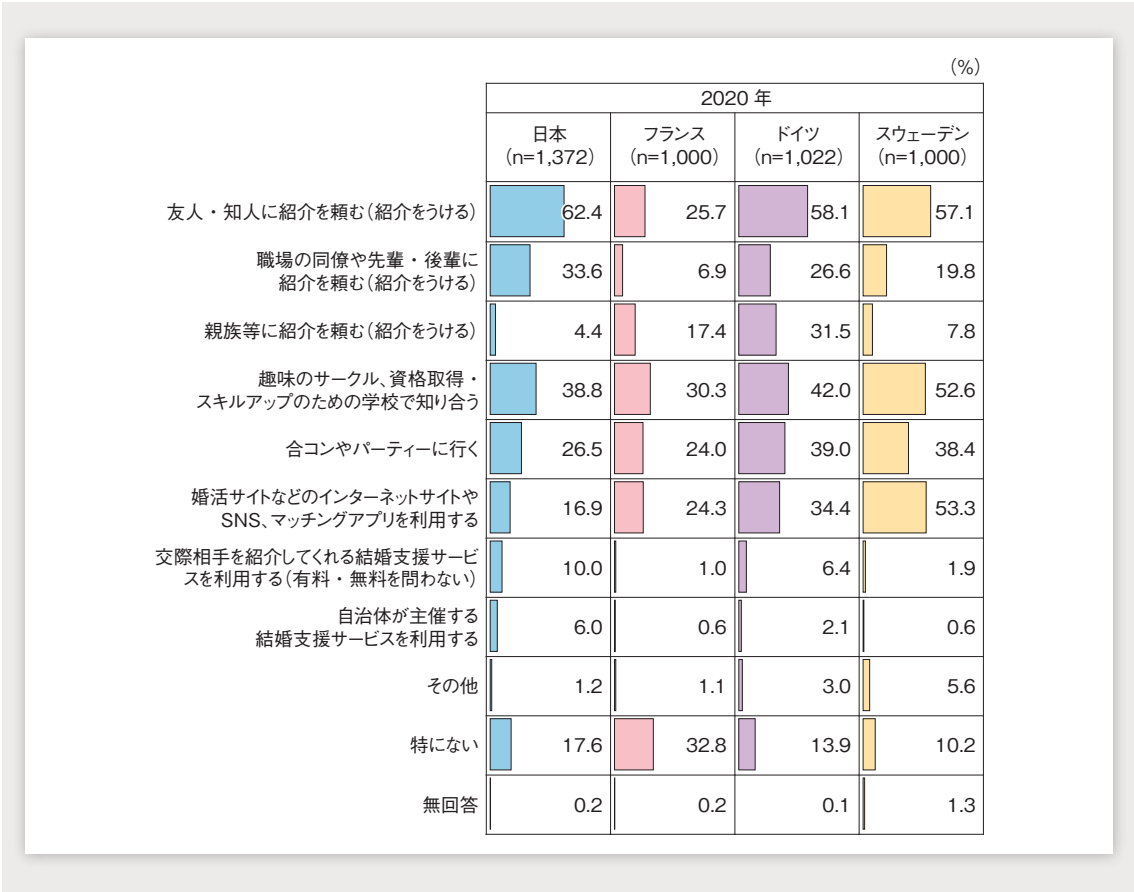
イ 交際相手との出会いの機会 (図表2)

交際相手との出会いを求めるとしたら、どのような機会があるとよいと思うかについて聞いたところ、日本では、「友人・知人に紹介を頼む(紹介をうける)」(62.4%)が最も高く、以下、「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(38.8%)、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む(紹介をうける)」(33.6%)が続く。

各国の結果を比較すると、フランスでは

「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(30.3%)、ドイツ・スウェーデンでは「友人・知人に紹介を頼む(紹介をうける)」(ドイツ:58.1%、スウェーデン:57.1%)が最も高くなっている。また、欧州3か国では「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNS、マッチングアプリを利用する」(フランス:24.3%、ドイツ:34.4%、スウェーデン:53.3%)が高くなっているが、日本では16.9%にとどまっている。

**図表2 交際相手との出会いの機会 (複数回答)**



## (2) 結婚

### ア 独身の理由 (図表3)

独身の理由についてみると、日本では、「適当な相手にまだ巡り会わないから」(50.5%) が最も高く、以下、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(38.6%)、「経済的に余裕がないから」(29.8%)、「結婚する必要性を感じないから」(27.9%)、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(27.3%) などの順となっている。

各国の結果を比較すると、欧州3か国では

「結婚する必要性を感じないから」(フランス：58.9%、ドイツ：49.0%、スウェーデン：60.7%) の割合が最も高くなっている。

日本について前回2015年度調査と比較すると、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(29.6%→38.6%) が9.0ポイント増加し、「今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから」(32.0%→19.0%) が13.0ポイント減少している。

図表3 独身の理由〈独身者〉(上位3項目)



注：「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 妊娠・出産

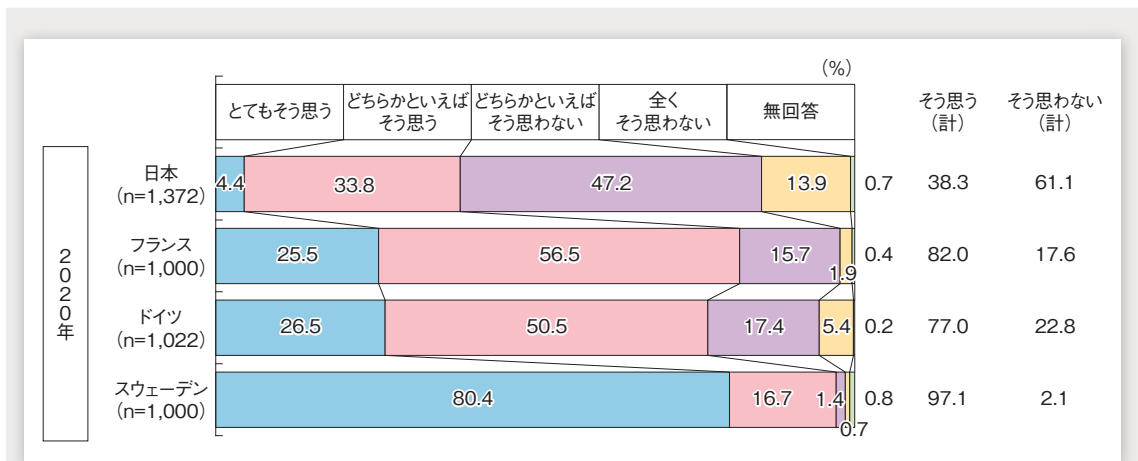
ア 日本（フランス・ドイツ・スウェーデン）について、子供を生き育てやすい国だと思うか（図表4）

自国が子供を生き育てやすい国だと思うか聞いたところ、日本では、「全くそう思わない」（13.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（47.2%）を合計した『そう思わない（計）』が61.1%と多数を占める。

各国の結果を比較すると、「とてもそう思

う」の割合はスウェーデンが80.4%と非常に高く、次いでドイツ（26.5%）、フランス（25.5%）が2割台半ばで並び、日本（4.4%）との差が大きい。「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う（計）』の割合は、スウェーデンが97.1%、フランスが82.0%、ドイツが77.0%の順であり、日本（38.3%）を大きく上回る。

図表4 子供を生き育てやすい国だと思うか（単一回答）



注：百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

## イ 子供を生き育てやすい国だと思う理由 (図表5)

自国が子供を生き育てやすい国だと思うと回答した人に、その理由を聞いたところ、日本では、「地域の治安がいいから」が52.0%と最も高く、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」が46.1%で続く。

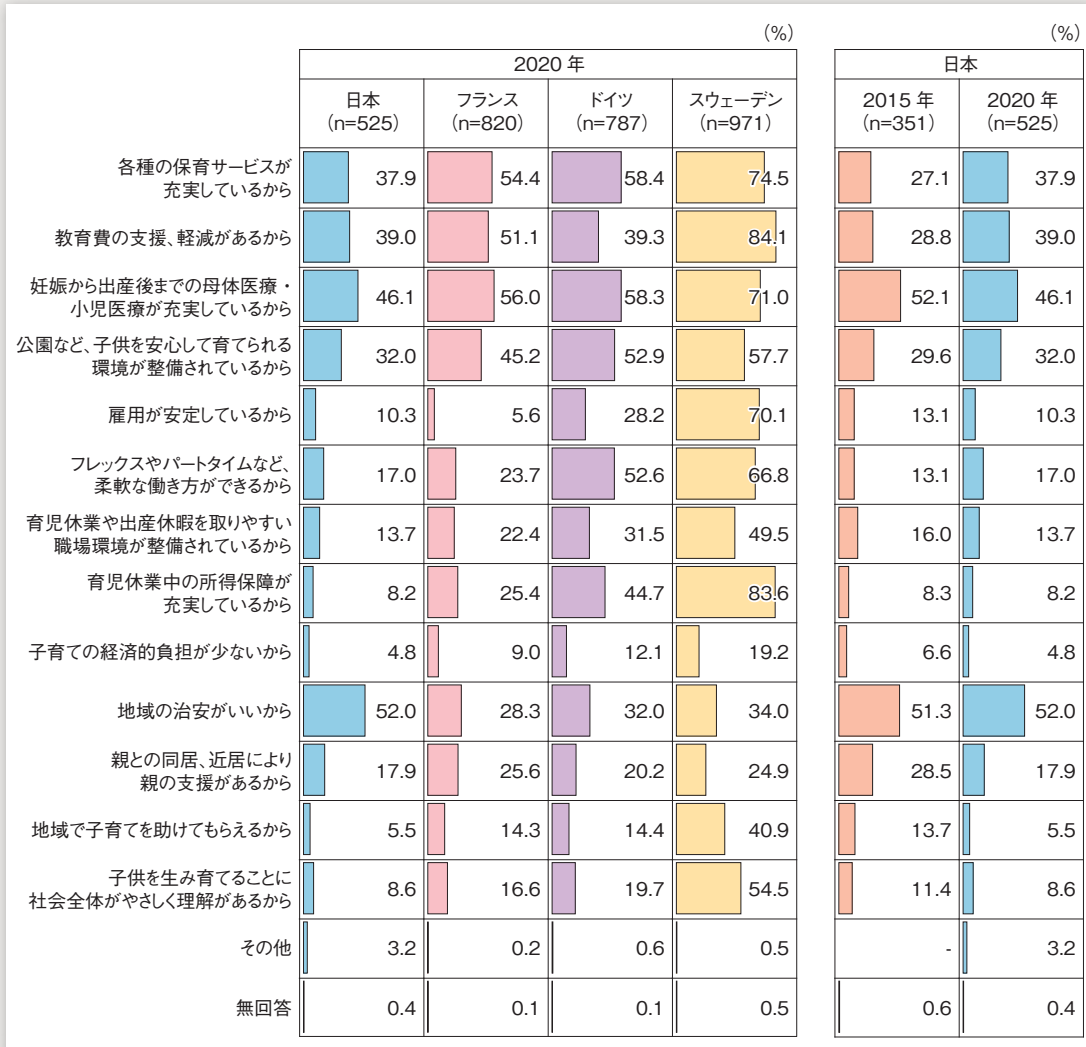
各国の結果を比較すると、フランス、ドイツでは、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」(フランス：56.0%、ドイツ58.3%)と「各種の保育サービスが充実しているから」(フランス：54.4%、ドイツ：58.4%)の割合が並んで最も高い。スウェーデンでは、「教育費の支援、軽減があるから」(84.1%)と「育児休業中の所得保障が充実しているから」(83.6%)が8割台で最も高い。また、上

位項目ではないが「子供を生き育てることに社会全体がやさしく理解があるから」(54.5%)と「地域で子育てを助けてもらえるから」(40.9%)がスウェーデンでは他の3か国よりも高い。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「各種の保育サービスが充実しているから」(27.1%→37.9%)と「教育費の支援、軽減があるから」(28.8%→39.0%)と回答した人の割合がそれぞれ10ポイント程度増加している。一方、「親との同居、近居により親の支援があるから」(28.5%→17.9%)は10.6ポイント、「地域で子育てを助けてもらえるから」(13.7%→5.5%)は8.2ポイント、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」(52.1%→46.1%)は6.0ポイント減少した。

図表5

子供を生み育てやすい国だと思う理由〈子供を生み育てやすい国だと思うと回答した回答者〉(複数回答)



注: 「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

#### (4) 子育て

##### ア 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について (図表6)

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割についての考えを聞いたところ、日本では、「主に妻が行うが、夫も手伝う」(49.9%) が約半数を占めており、「妻も夫も同じように行う」(40.5%) が続く。

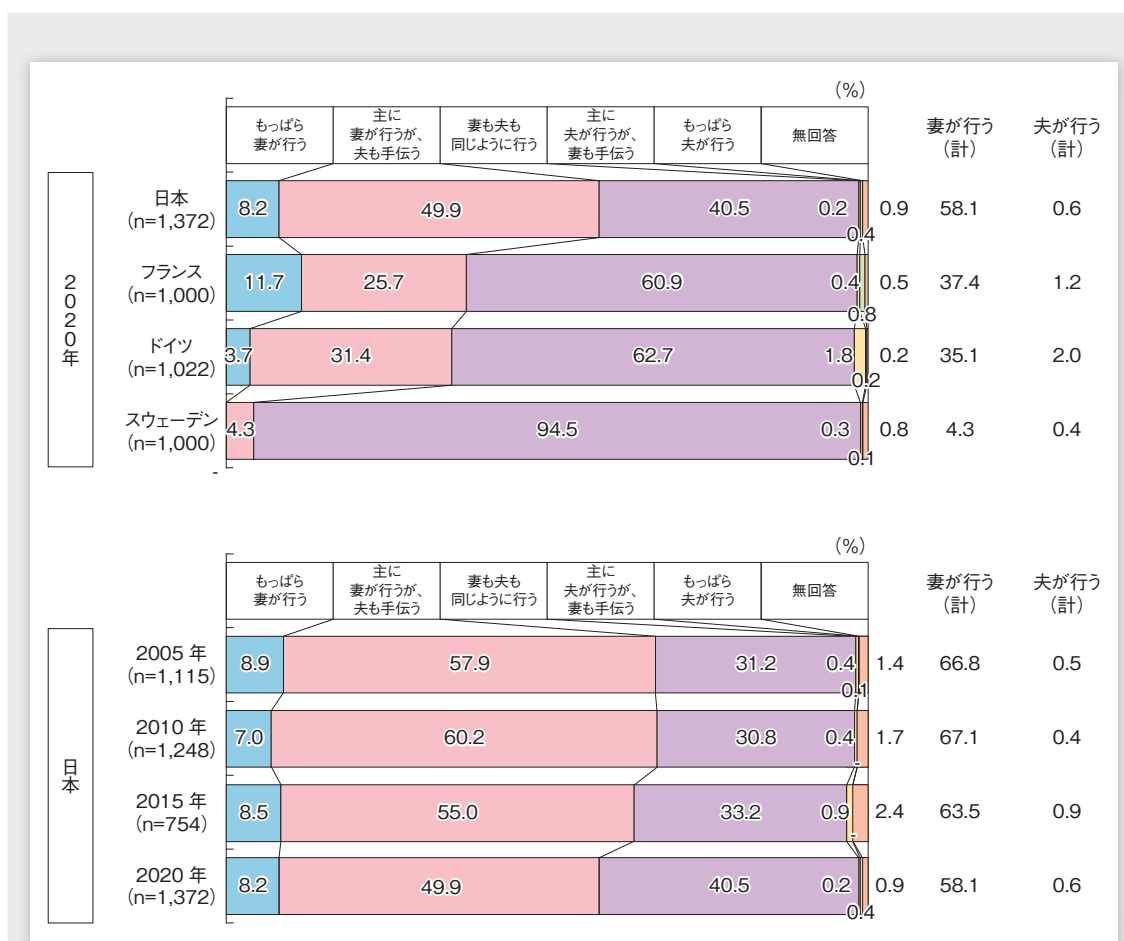
各国の結果を比較すると、欧州3か国では

「妻も夫も同じように行う」(フランス：60.9%、ドイツ：62.7%、スウェーデン：94.5%) と回答した人の割合が6割を超えており、スウェーデンで9割台と特に高くなっている。

日本について過去の結果と比較すると、「妻も夫も同じように行う」(40.5%) が前回2015年度調査の33.2%より7.3ポイント増加している。

図表6

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について (単一回答)



注：1. 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。  
2. 「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。



イ 育児の中で、妻よりも夫の方が主に  
行ってほしいこと（図表7）

子供のいる方に、家庭の中で、小学校入学前の育児において、男性には妻と同程度あるいは自身の方が主として行いたい（行いたかった）こと、女性には自身と同程度あるいは夫の方が主として行ってほしい（行ってほしかった）ことは何か聞いたところ、日本では、「散歩など、屋外へ遊びに連れて行く」（52.8%）が最も高く、「家の中で、話や遊び相手をする」（51.9%）、「入浴させる」（47.3%）が続く。

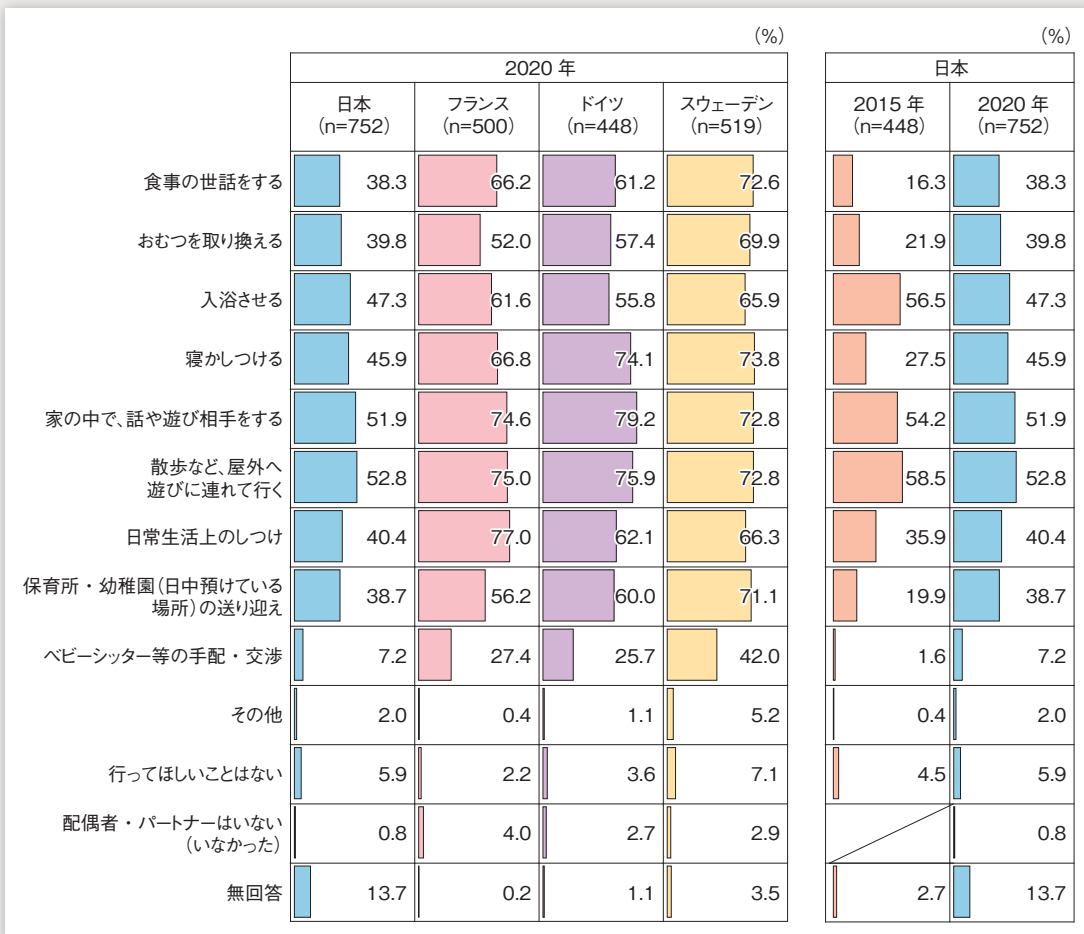
各国の結果を比較すると、欧州3か国ではほぼ全ての項目で日本より高い割合となつて

いる。フランスでは「日常生活上のしつけ」（77.0%）、ドイツでは「家の中で、話や遊び相手をする」（79.2%）、スウェーデンでは「寝かしつける」（73.8%）がそれぞれ最も高い。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「食事の世話をする」（16.3%→38.3%）、「保育所・幼稚園（日中預けている場所）の送り迎え」（19.9%→38.7%）、「寝かしつける」（27.5%→45.9%）、「おむつを取り換える」（21.9%→39.8%）がそれぞれ20ポイント前後増加している。

図表7

育児の中で、妻よりも夫の方が主に行ってほしいこと  
〈子供が1人以上の回答者〉（複数回答）



注：「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

## (5) 新型コロナウイルス感染症拡大が結婚・子育て等の意識に与えた影響

### ア 結婚(同棲)に対する意識の変化(図表8)

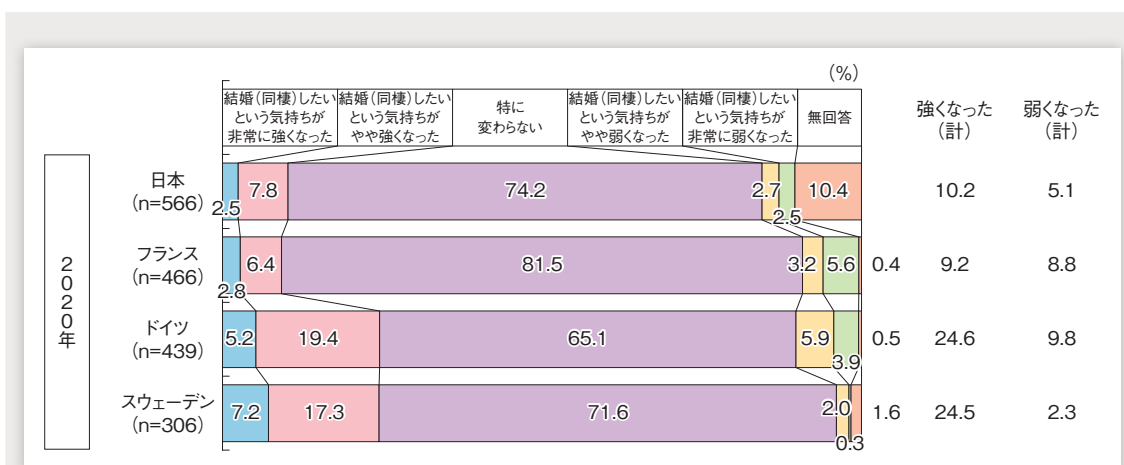
現在結婚も同棲もしていない人に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、結婚(同棲)に対する意識に変化はあったか聞いたところ、日本では、「特に変わらない」の割合が74.2%で最も多いが、結婚(同棲)したいという気持ちが『強くなった(計)』と回答した人は10.2%であり、『弱くなった(計)』と回答した人の割合(5.1%)よりも高い。

りも高い。

各国の結果を比較すると、結婚(同棲)したいという気持ちが『強くなった(計)』はドイツ(24.6%)とスウェーデン(24.5%)で約4分の1と高く、日本(10.2%)とフランス(9.2%)が1割前後となっている。4か国とも「特に変わらない」が多数を占め、『弱くなった(計)』よりも『強くなった(計)』の方が高いが、フランスでは『弱くなった(計)』と『強くなった(計)』が拮抗している。

図表 8

結婚(同棲)に対する意識の変化  
(現在、結婚も同棲もしていない回答者)(単一回答)



注: 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

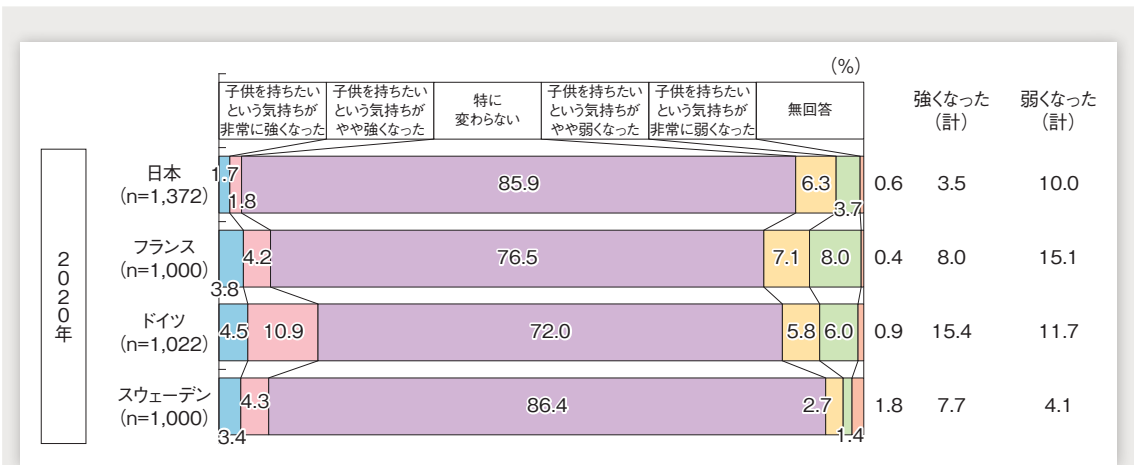
イ 子供を持つことに対する意識の変化  
(図表9)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、子供を持つことに対する意識の変化はあったか聞いたところ、日本では、「特に変わらない」の割合が85.9%で大多数を占め、子供を持ちたいという気持ちが『強くなった(計)』と回答した人は3.5%にとどまる。子供を持ちたいという気持ちが『弱くなった(計)』と回答した人の割合は10.0%で、『強くなった(計)』と回答した人の割合よりも

高い。

各国の結果を比較すると、『強くなった(計)』はドイツ(15.4%)で最も高く、次いでフランス(8.0%)、スウェーデン(7.7%)、日本(3.5%)の順である。4か国とも「特に変わらない」が大多数を占め、ドイツとスウェーデンでは、『弱くなった(計)』よりも『強くなった(計)』の方がやや高いが、日本とフランスでは『弱くなった(計)』の方が高い。

図表9 子供を持つことに対する意識の変化(単一回答)



注：百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

### ウ 家事や育児の負担に対する意識の変化

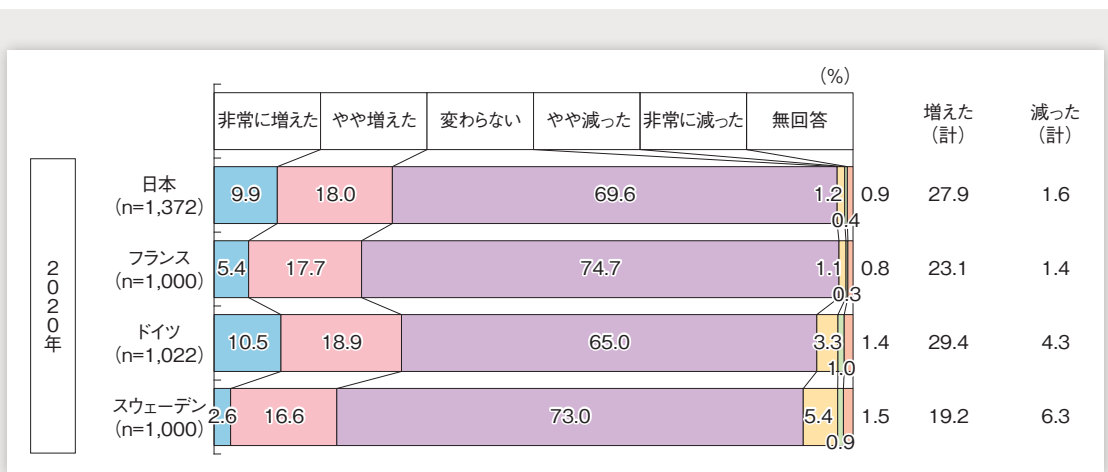
(図表 10)

家事や育児の負担については、日本では「非常に増えた」(9.9%)と「やや増えた」(18.0%)を合計した27.9%が家事や育児の負担が『増えた(計)』としているが、大多数の69.6%は「変わらない」と回答して

いる。

各国の結果を比較すると、家事や育児の負担が『増えた(計)』という回答はドイツ(29.4%)で日本と同程度であり、次いでフランス(23.1%)、スウェーデン(19.2%)の順である。

**図表 10** 家事や育児の負担に対する意識の変化 (単一回答)



注: 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。